03

目指す将来像と取組イメージ

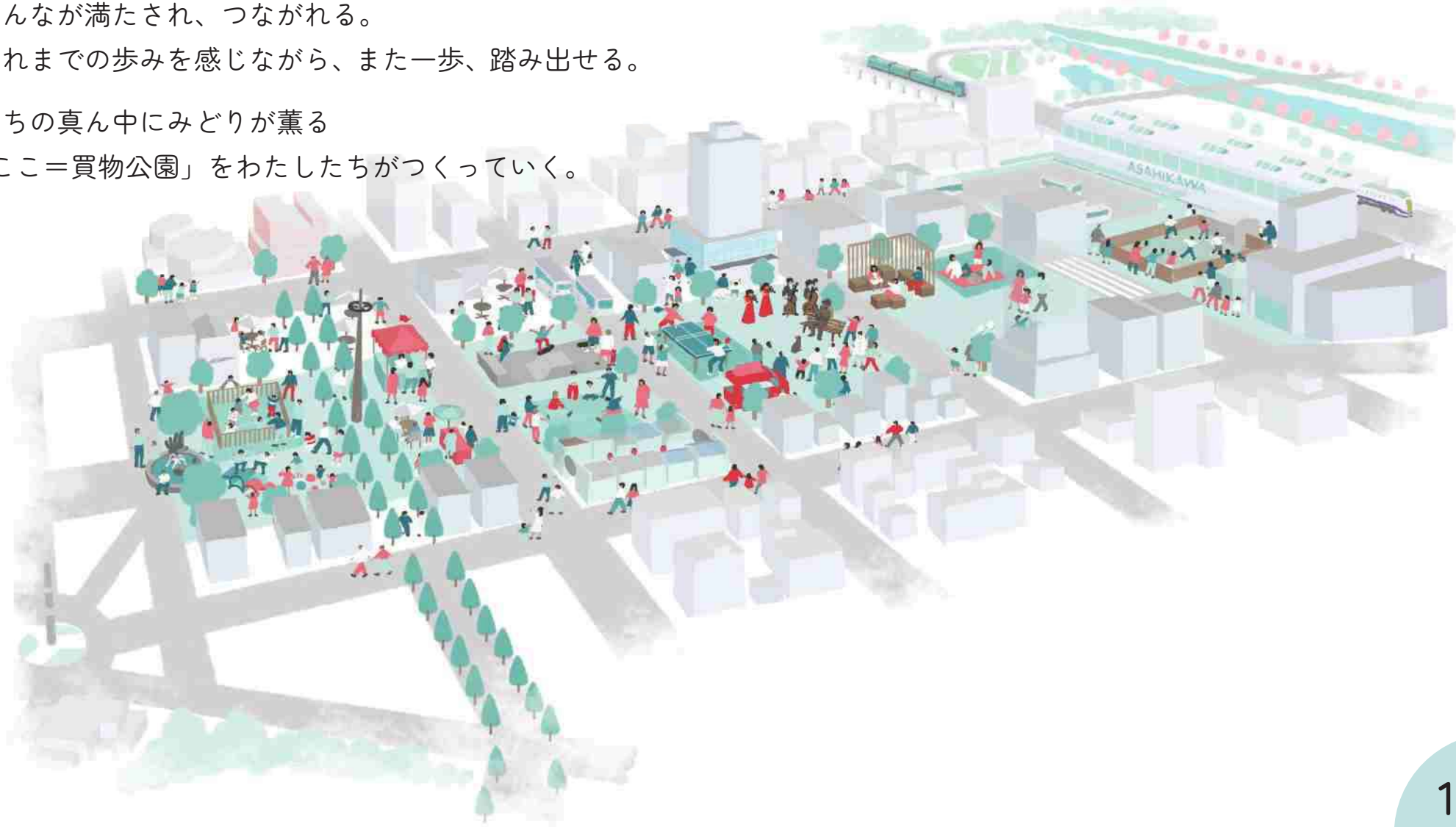
本章では買物公園エリアの目指すべき将来像をイラストパースで示すとともに、想い描くエリア全体像と取組イメージについて説明します。

04 ゾーンごとの将来イメージ
05 推進体制
06 実現に向けた進め方

わたしの「毎日」がここにある

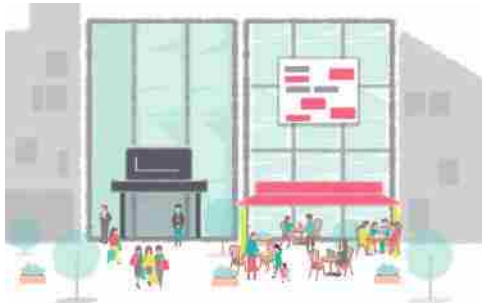
日常も非日常も、
ここで過ごすことが暮らしの一部となり、
みんなが満たされ、つながれる。
これまでの歩みを感じながら、また一歩、踏み出せる。

まちの真ん中にみどりが薫る
「ここ＝買物公園」をわたしたちがつくっていく。



04 ゾーンごとの将来イメージ
05 推進体制
06 実現に向けた進め方

実現したいエリア全体のイメージ



01 素敵な自分でいられるエリア

歩行空間や沿道建物のグランドレベル、街並みなどに洗練されたデザインの視点を取り入れ、**ここにいるだけでおしゃれに、素敵になれるエリア**へ

02 行きたい・歩きたくなるエリア

買物公園エリアの効果的な情報発信や移動しやすいモビリティの導入により、目的があってもなくても、**エリア全体に人が集まるエリア**へ

03 やりたいが自由に実現できるエリア

エリア内に点在する公共空間や沿道の空き店舗・空き地などを活用し、利用しやすい仕組みを考え、**みんなのやりたいことが常に取り組め、つながれるエリア**へ

ありたい姿の実現に向けた基本的な取組イメージ

Action 1 誰もが チャレンジできる場・仕組みづくり

①空き店舗・空き地などの活用促進

・**空き店舗・空き地などの情報を共有**し、活用できるフィールドを発掘することで、活用による多様な目的地を増やしていきます。

②公共空間の活用促進

・公共空間の利用申請手続きの簡素化を行います。
・誰もがチャレンジできて、新規出店しやすくなる仕組みづくりを行います。

Action 2 みんなとつながる 効果的な情報発信

①交通結節点での効果的な情報発信

・エリアの入口となる交通結節点を中心に、**エリア全体のイベント情報やエリア内の魅力的な店舗等の情報を入手**できるよう、効果的な発信を行います。

②エリアの価値を高めるための情報共有の場づくり

・エリアプラットフォームを中心とした、エリアの関係者間で知見や情報の共有を行います。

Action 3 どんな時も 居心地よく・回遊しやすいエリア形成

①誰もが利用できる滞在空間（屋内・屋外）の設置

・人が歩いても良いと感じる**距離**※を意識した誰もが憩える高質な滞在空間を設置することで、滞在時間を増やします。

②滞在空間や周辺エリアとつなぐ移動手段の導入

・**エリア内や周辺エリアとの移動をしやすくすること**を目的としたモビリティ導入などにより、賑わいを広げます。

Action 4 沿道がつながる ブランディングされた一体的な街並み形成

①沿道建物などの一体的な街並み

・**グランドレベルに開かれた魅力的なデザインと一体的な街並みを形成**するため、利活用のルールづくりを検討していきます。

②エリアの求心力向上

・**エリアの中心性を高める民間開発の誘導**や老朽建物の更新、空きビル・空きテナント等の**活用を推進**するため、調査・検討を進めます。

※歩いても良いと感じる距離：国土交通省資料より、人間の距離評価は、心理的条件によって左右され、人によって感じ方は異なるが、歩行距離の限界や徒歩圏の大きさの目安が示されています。
人が歩いても良いと感じる距離：300m程度、 目的地まで歩いても良いと感じる距離：500m程度、バスなどの代替手段が必要と感じる距離：600m以上